千葉労災病院　皮膚科　各科選択研修プログラム

１ 研修プログラムの目的及び特徴

皮膚科の志望の有無に関わらず、一般的な皮膚科領域の知識・技能の習得を目指します。

皮膚科以外の科においても病棟や救急外来などで皮膚疾患・皮膚トラブルに遭遇することは多々あり、簡単な治療選択を行えるようになること、手に余る場合は適切なタイミングで皮膚科にコンサルトできるようになることが目標です。

２ 研修指導責任者

熊田　大樹（皮膚科副部長）

研修指導者

皮膚科　２名

３ 研修内容と到達目標

（１）一般目標(GIO)

1. 皮疹（湿疹、蕁麻疹など）の特徴を捉え、区別し、記載できる。
2. 疾患や皮疹、創の状態に合わせた適切な外用薬を選択できる。
3. 抗ヒスタミン薬などの抗アレルギー薬を適切に選択できる。
4. 薬疹のアセスメント、検査、治療を行える。
5. 各種アレルギー検査の種類、特性、適応症を理解する。
6. 皮膚科の全身療法の種類、適応症を理解する。
7. 皮膚科の理学療法の種類、適応症を理解する。
8. 皮膚科の外科手技を理解、習得する。
9. 皮膚細菌感染症の診断、治療を行える。
10. 皮膚ウイルス感染症の診断、治療を行える。
11. 皮膚真菌感染症の診断、治療を行える。
12. 皮膚良性腫瘍、悪性腫瘍の特徴、検査、治療法を理解する。
13. 遺伝性皮膚疾患について理解する。
14. 入院適応となる皮膚疾患を理解し皮膚科にコンサルトできるようになる。
15. 入院症例の病棟管理を行える。

（２）行動目標 SBOs:

一般目標を達成するためにそれぞれの行動目標を記載する。

1. 皮疹（湿疹、蕁麻疹など）の特徴を捉え、区別し、記載できる。

①皮疹の分布を表現できる。

②皮疹の性状、形状、色調などを皮膚科用語で説明できる。
③皮疹の大きさ、個数を表現できる。
④各皮膚疾患でどのような皮疹が見られるか理解する。
2. 疾患や皮疹、創の状態に合わせた適切な外用薬を選択できる。
①感染した創への外用薬を選択できる。
②感染していない創への外用薬を選択できる。
③褥瘡の状態に合わせて外用薬を選択できる。
④熱傷の状態に合わせて外用薬を選択できる。
⑤皮膚炎の状態に合わせて各ランクのステロイド外用薬を選択できる。
3. 抗ヒスタミン薬などの抗アレルギー薬を適切に選択できる。
①内服下で危険作業（運転等）をしてもよい抗ヒスタミン薬を理解する。
②倍量投与可能な抗ヒスタミン薬を理解する。
③空腹時内服の抗ヒスタミン薬を理解する。
④抗ヒスタミン薬それぞれの強さの違いを理解する。
⑤小児や妊婦・授乳婦へ投与できる抗ヒスタミン薬を理解する。
⑥抗ヒスタミン薬以外の抗アレルギー薬について理解する。
4. 薬疹のアセスメント、検査、治療を行える。
①原因薬の感作の成立までに必要な期間を理解する。
②それぞれの被疑薬において頻度の高い薬疹の型がある程度決まっていることを理解する。
③薬疹を起こす頻度が高い薬剤があることを理解する。
④DIHS や TEN、SJS などの重症薬疹の特徴、治療法を理解する。
5. 各種アレルギー検査の種類、特性、適応症を理解する。
①パッチテストの手技、特性、適応症を理解する。
②プリックテストの手技、特性、適応症を理解する。
③皮内テストの手技、特性、適応症を理解する。
④特異的 IgE 抗体測定の意義、適応症を理解する。
⑤DLST 検査の特性、適応症を理解する。
6. 皮膚科の全身療法の種類、適応症を理解する。
①ステロイド内服の適応症を理解し、副作用の予防を行える。
②その他の免疫抑制剤それぞれの特徴、メリット・デメリットを理解する。
③生物学的製剤の特徴、適応症について理解する。
④JAK 阻害薬の特徴、適応症について理解する。
⑤レチノイドの特徴、適応症について理解する。
⑥ヒドロキシクロロキンの特徴、適応症について理解する。
7. 皮膚科の理学療法の種類、適応症を理解する。
①光線療法の特徴、適応症を理解する。
②放射線療法の特徴、適応症を理解する。

③凍結療法の特徴、適応症を理解する。
8. 皮膚科の外科手技を理解、習得する。
①表皮縫合を行える。
②真皮縫合を行える。
③全層植皮、分層植皮の適応症、手技について理解する。
9. 皮膚細菌感染症の診断、治療を行える。
①毛包炎、ざ瘡、膿痂疹などの外用療法を行える。
②せつ、癰、皮下膿瘍を区別し、切開など適切な治療を行える。
③蜂窩織炎と間違えやすい疾患（滑液包炎、偽痛風、うっ滞性皮膚炎など）を区別できる。
④蜂窩織炎の内服療法、点滴療法を理解し実践できる。
10. 皮膚ウイルス感染症の診断、治療を行える。
①帯状疱疹の診断、治療を行える。
②単純疱疹の診断、治療を行える。
③VZV、HSV の抗原迅速検査（イムノクロマト法）を行える。
④ウイルス性疣贅の治療を理解する。
11. 皮膚真菌感染症の診断、治療を行える。
①皮膚カンジダ症、足白癬、爪白癬の検査（鏡検）を行うことができる。
②鏡検でカンジダと白癬を区別できる。
③真菌それぞれの MIC に合わせた外用薬を選択できる。
12. 皮膚良性腫瘍、悪性腫瘍の特徴、検査、治療法を理解する。
①皮膚良性腫瘍の肉眼所見、ダーモスコピー所見を理解する。
②皮膚悪性腫瘍の肉眼所見、ダーモスコピー所見を理解する。
③皮膚生検の手技を理解し、介助できる。
④良悪性や腫瘍の大きさなどに合わせて適切な切除マージン、切除法を設定・提案できる。
13. 遺伝性皮膚疾患について理解する。
①遺伝性水疱症、角化症、色素異常症、結合織疾患などについて理解する。
14. 入院適応となる皮膚疾患を理解し皮膚科にコンサルトできるようになる。
①蜂窩織炎をアセスメントし入院適応を判断できる。
②汎発性帯状疱疹を診断し入院適応を判断できる。
③皮疹と病歴から重症薬疹を疑うことができる。
15. 入院症例の病棟管理を行える。
①発熱時のアセスメントができる。
②抗菌薬や抗ウイルス薬の点滴治療を行える。
③その他必要に応じて他科へコンサルトできる。

４ 学習方略(LS)

1）病棟研修
　スタッフとともに入院患者の診察・回診を行い、問題点の整理、検査・治療計画に参加する
2）外来研修
　スタッフと共に外来患者の問診・診断・治療方針決定に関わる
3）カンファレンス
　症例カンファレンスなどに参加し、症例のプレゼンテーションを行い、診断・治療方針の決定に関わる
4）実技研修
指導医のもとで、皮膚科特有の手技、手術を行う

週間スケジュール

	午前	午後
月	外来研修、	手術室研修
火	外来研修、	外来研修
水	外来研修、	外来研修
木	外来研修、	外来研修
金	外来研修、	外来研修

　※午前は初診、再診を中心に、午後は生検、処置を中心に行う。

５ 評価（EV）

研修医は PG-EPOC に自己の研修内容を記録、評価する。
実施責任者および看護師を含むチーム医療のスタッフが、研修医の診療および研修態度を研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価する。なお、評価票はインターネット上のシステム（PG-EPOC　等）を使用する。目標達成状況を症例レポートから把握し形成的評価を行う。各評価をもって二年目修了前に研修管理委員会にて総括的評価を行い、修了判定の資料とする。

初版：令和 7 年 4 月 21 日
令和 7 年 7 月 1 日
令和 8 年 10 月 1 日